

① 総務部

② 企画制作部

③ 事業推進部

④ おもちゃ美術館(準備室)事業部

⑤ 拠点事業部

わはは・ひろば高松

わはは・ひろば香西

わはは・ひろば坂出

高松コーディネーター

⑥ センター事業部

まろっ子ひろば

一時預かり

事務

坂出コーディネーター

①総務部 令和4年度 事業報告

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標	実績	達成率	評価
総務部	－円	小出 正1人	寄付 100 人 300,000 円	222 人 1,228,164 円	409.3%	4.4

【2022 年度の行動目標】

主	安定した組織運営の仕組みを整える	実行して成果があがったこと(特筆事項)	評価
項目	①年間の組織内の動きを見える化する	都度総会資料を見直して、年度の計画に立ち戻ると意識が少しずつ形成されてきていると感じている。さらに年間カレンダーの精度を上げて活用していきたい。LINEWORKSを導入し、組織全体の連絡ツールを再構築することができた。	4
	②非収益事業である、おもちゃ美術館事業を含めたの会計手順を整える	チケット予約システム・レジの導入、窓口でのチケット販売、売上計上～経理処理まで、初の取り組みではあったが、マニュアルも作成しつつ日々試行錯誤しながら進めることができたが、さらなる改善が必要と思われる。	4
	① 職場環境の改善	部門ごとの3S活動を継続実施するとともに 11/22 には、3Sリーダーが集まったの共有会で、3S活動の意義や、事務局での取り組みに対して意見交換する場をもった。次回は 6 月に高松ひろばで開催予定。ハラスメント研修も外部の講師を招いて 9/22 に実施した。	5
	② ワークライフバランスの実現	計画に沿って検診受診促進、有給休暇取得促進を継続することができた。有給休暇取得率 79.6%達成。	5
	⑤キャリア支援	キャリア面談を就業規則に基づき2年に1回のペースで継続実施。	4

【事業チームとしての総合的なふりかえり(成果・反省点)】

- ・寄付者への活動報告、会員種別の整理等が、変化に追い付いていないところがある。讃岐おもちゃ美術館への寄付者、わははネット本体への寄付者、正会員・賛助会員をどのように整理し、どう管理・発信をしていくか、マネージャー会、理事会含めて相談をして、具体策を決めていく必要がある。
- ・新規部門である讃岐おもちゃ美術館の立ち上げに伴う変化に労力を割かれることも多く、何とか都度対応してきた感じである。スタッフ同士が時間と空間を共にすることが減ったことを、ミーティングの時間を活用して共有を心掛けた。今後も週1回のミーティングの時間を大事に活用したい。
- ・月に1回の会議体である、マネージャー会を継続実施できた。各部門の報告・連絡から、少しずつこれまで抱えていた課題について改善するための意思決定の場へと変化してきつつある。

【事業チームとしての次期への課題】

- ・人材育成含め、人的資源・組織の課題を整理し、それを解決していくための研修、仕組みを体系化していく必要があると感じている。スタッフが自分の価値を認識しつつ、自身のキャリアと組織の成長を共に創っていけるような取り組みをスタートさせたい。
- ・讃岐おもちゃ美術館の部門の経理処理についての仕組みを、さらにわかりやすいものに整えると共に、役割を明確にしながらスムーズに売り上げ処理が流れるような体制づくりをしていかなければならないと感じている。

②企画制作部 令和4年度 事業報告

チーム名	スタッフ数	目標	自主事業	24,147,600円	利用者数・目標	達成率	評価
企画制作	正1人		実績	委託事業	977,000円	45,450人	
		自主事業		21,923,600円	実績		
	P2人	委託事業	977,000円	41,588人			

【年度の行動目標】

主	人材確保・人材育成	実行して成果があがったこと(特筆事項)	評価	
重点項目	自主事業	子育て情報誌『おやこ DE わはは』(Vol.101～Vol.106) ■売上げ 12,252,900円(税込)	・年間計画に沿って制作、営業を滞りなく6回発行することができた。 ・ママフェス開催、幼保卒園式のタイミングに合わせて2～3日繰り下げ発行するなどより効果的に配布できた。	3
		ソーシャルメディア・SNSの活用、情報発信 ■売上げ 144,100円(税込)	・企業情報のライン@配信は情報誌広告掲載のアフターフォローとしての活用がほとんどとなった。情報誌広告掲載+line@配信で企業からの評判はよかった。 ・単独での企業からのLINE@配信はこれまで配信実績がある企業のみとなった。効果があったため定期的に配信依頼につながっている。 ・SNS(LINE@、Instagram)登録数はLINE@ 1861名、Instagram 1,511名	4
		ママ∞フェスタ 2022 ■売上げ 4,039,000円(税込)	・11/13開催。状況に応じた感染症対策、入場制限をせずに実施。 ・ファミリー防災フェスティバルとの協働開催。「防災」をキーワードに出展につながった企業あり。 企業 41(45)、HM 10(10)、防災 8(10)、同梱 13、ステージ 4	5
		防災について	・情報誌で家庭防災を考えるきっかけとなるように紙面提供できた。	4
		総合的営業(らっこ) ■売上げ 5,985,600円(税込)	前年度協賛企業を取りこぼさないように営業を行った。前年度ベースでの広告枠獲得となった。らっこ掲載辞退団体でも情報誌に掲載してくれた。	3
		縁結び・子育て美容-eki ■受託料 967,000円(税込)	・業務を仕様書にそって滞りなく実施することたができた。情報誌で毎号、本事業を掲載。記事を見て認定店舗になった企業があった。	4

【事業チームとしての総合的なふりかえり(成果・反省点)】

人材確保・育成

・スタッフの増員を予定通りできた。育成については「わははネットで働くスタッフ」への取材を実施。他部門の事業内容を担当スタッフから聞くことで“ヨコのつながり”ができた。

営業

・情報誌は新規開拓が不十分であった。・ママフェスは新規出店企業8社獲得できた。
・売上金額だけに着目せず、営業利益を意識する思考はできたものの営業利益アップにつながる行動が十分にできなかった。

制作

・情報共有ツールの活用が十分に行えなかった。
・担当者が自身の業務目標をたて、実施できるようにする。業務の進行確認は毎週行う定例ミーティングで確認できた。

認知度 UP

・Instagramはママフェス開催前には定期的に発信を行いフォロワー数アップとなった。フェイスブックの活用が不十分であった。認知度UP(広報)の目的がどこにあるのかチームで再度共有し、ニーズに合った広報につなげていきたい。

③事業推進部 令和4年度 事業報告

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標	実績	達成率	評価
事業推進部	20,569,450 円	小出 P3人	108,425 人	110,431 人	98.2%	4.5

【年度の行動目標】

主	仕様書に沿った確 実な実施運営	実行して成果があがったこと(特筆事項)	評価
重 点 項 目	①令和4年度版子育て ハンドブックの協働発 行事業(高松市)	掲載箇所への確認を進めながら、必要な情報をわかりやすく掲載できるよう、デザイナーとも連携の上、進めることができた。担当スタッフが継続して関わっていることで、掲載箇所との関係性もできてきている。	4
	②高松子育て支援総合 情報発信事業(高松 市) ¥948,200	冊子改訂の内容について、確実にネット掲載上の情報を更新することができた。役所からの掲載記事に対しても、速やかに対応できた。	4
	③ひとり親等支援総合 情報発信事業(高松 市) ¥1,361,250	役所とやり取りしながら、都度対応できている。メール相談についても、迅速な対応ができた。	4
	④子育て支援人材養成 事業 (香川県) ¥8738,000	随時、行政の担当者と連絡をとりながら、スムーズな運営ができた。今年度新たに丸亀市マルタスを会場として利用することとなったが、会場のルールに合わせてどう動けばよいか、スタッフが自ら考え動くことができた。	5
	⑤「イクケン香川」たま ご育て事業(香川県) ¥3,055,000	アンケート依頼や、チラシ配布など、実際に相手先に足を運んで直接顔を見て依頼をしたり、電話で話をする中で、関係性を作ってきている。その結果が、集客に確実に繋がった。	5
	⑥仕事と子育ての両立 に関わる事業 ¥160,000	数年ぶりに香川銀行での対面研修が実施できた。継続してきているオンラインの講座に加えて、11月に讃岐おもちゃ美術館を利用しての初のパートナーシップ講座を開催。復帰時期に合わせて開催してほしいという要望があり、3月に実施を追加決定した。外部の機関と連携して、子育て期の方に向けての講座を1月、2月、3月と3回実施できた。	4
	⑦乳幼児とのふれあい 事業(高松市) ¥340,000	まだコロナの状況が不安な中での実施ということで、新たに動画を制作し補助的に使ってもらうようにした。学校側の実情も、コロナの状況で不安定であったものの、拠点とも連携しながら親にとっても意味のある経験にできたのではないかと思う。	4
	⑧女性リーダー養成講 座(香川県) ¥1,200,000	4回の連続講座であるとともに、講師陣にも横のつながりができるような講義を依頼して講義を組み立てた。結果、参加者の満足度も高く、今年度は参加者からの呼びかけでの事業終了後のSNSを活用してのネットワークも生まれた。	5
	⑨【新】子育てハンドブ ック改訂事業(坂出市) ¥660,000	役所と連携しながら、スムーズに改訂作業を進めることができた。デザインや見せ方等も、役所の要望も聞きつつ満足いただける仕上がりになった。	5
	⑩【新】女性が輝く職場 づくり事業(香川県) ¥2,400,000	企業規模も違い、メンター制度導入についての温度感も違う中で、参加企業の様子を探りながらではあったが、うまくいかなかった事例も含めて最終回では事例共有しながら今後につながるものにできたのではないかと思う。	4
	⑪【新】放課後児童支 援員養成研修(高松 市・予定) ¥1,710,000	香川県でのこれまでの子育て支援人材育成研修を実施してきたノウハウを最大限に生かしながら、滞りなく事業実施できた。	5

【事業チームとしての総合的なふりかえり(成果・反省点)】

担当者が責任をもって事業実施しつつ、必要なところは助け合う風土が定着している。新規事業3本実施できた。

【事業チームとしての次期への課題】

新規スタッフの雇用。人材育成。

④ 讃岐おもちゃ美術館事業部 令和4年度 事業報告

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標	実績	達成率	評価
おもちゃ美術館事業部	- 円	中橋・小出 チーフD 3人 D(パート)	45,000 人 (有料来館者 40,000 人)	40,988 人 (有料来館者 33,477 人)	91.1% (有料来館者 83.7%)	4

【年度の行動目標】

主	安心・安全な運営と、安定した経営を目指す。	実行して成果があがったこと(特筆事項)	評価
重点項目	① 入館者目標 45,000人 /年 定期的に経営計画の見直しを図る、	4月25日に開館し、試行錯誤しながらのスタートとなった。コロナ禍でもあり、入館システムを導入してきたが、来館者が常に定員いっぱい状況ではないこと、予約がハードルとなり来館を躊躇したり、ネット決済ができない来館者からの要望もあり、2月末を目途に予約を撤廃した。随時、状況に合わせて変化をしてきた1年であった。	4
	② 人材育成	スタッフの入れ替わりや、状況の変化もあり、土日のスタッフの確保に苦労することとなった。シフト制での勤務のため、スタッフがそろって意識合わせをする時間がとれず、12月からは3か月に1回はスタッフ研修の日を確保するようにした。広報、おもちゃ、清掃のチームでの活動も少しずつ軌道に乗ってきている。	4
	③ 寄付	仕組みを作るところまではできなかったが、外部で講演をする機会をとらえて讃岐おもちゃ美術館の意義を伝えることが寄付につながってきた。館内の赤灯台、一口館長の積木を見て寄付をしたいと申し出て下さる方もいた。	4
	④ 広報	ママ∞フェスタの際に、おもちゃ美術館のブースに遊びに来てくれた親子に1家族1名利用できる招待券を配布。実際に3割を超えての方の利用があり、手ごたえを感じた。	4
	⑤ 施設管理	木材の乾燥による割れやそりに悩まされたが、都度デザイナーや他館の運営者に教を請いながら、対応してきた。スタッフやおもちゃ学芸員の特技を生かして修繕チームが活躍した。	4

【事業チームとしての総合的なふりかえり(成果・反省点)】

初年度ということで、年間を見通した運営ができていないことや、人材の定着、役割の明確化など、課題も見えてきている。おもちゃ学芸員の方との関係性の構築がうまくできており、継続的に自分の舞台として活躍してくださっている、おもちゃ学芸員さんが多くいらっしゃる。まだまだ認知が低く、知ってもらい、来館してもらい、また来たいと思う、この流れを作っていく必要があると思う。

【事業チームとしての次期への課題】

年間を通したスケジュール、目標の策定、計画に沿った実施運営。雇用による人材確保も含めた、土日祝日の潤沢なスタッフ体制づくり。継続的な寄付の仕組みの構築。フロア業務とのバランスを取りながら、その他の業務に携わる時間をどう確保していくか。

⑤拠点事業部 令和4年度 事業報告

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標	実績	達成率	ふりかえり(評価)
拠点事業部	26,711,000 円	正 3 P 10	② 11,360人 ③ 38,000人	①12,898 人 ③ 59,105人	113% 155%	4
たかまつ支援 CN	8,686,000 円	正1 P1 太田	3,200	4,500 人	141%	

※①ひろば利用人数②ひろば利用人数・オンライン参加数・ワークキット配布数・インスタフォロワー・動画再生数の合計

【年度の行動目標】

	実行して成果があがったこと(特筆事項)	項目別評価
① わはは・ひろば坂出	ボランティアスタッフが増加し、ひろば内での講座の開催など利用者が自主的に活動できる機会が増えた。 新体制でのチームワークづくりに取り組んだ。 利用者アンケートから『安心・安全なひろば』と回答した人 90%達成	3
② わはは・ひろば高松	地域の学生・ひろば利用者のボランティア登録が増加し、得意なことを活かしてのイベントの開催や親子との交流など世代や属性を超えたかかわりが多くあった。	4
③ わはは・ひろば香西	重層的支援体制整備事業施行による取り組みとして、地域で行われているサークルに参加し、子育て中の親子と地域で生活する住民との交流の場を作った。民生委員や他のコミセンサークルからも声がかかるようになり地域との繋がりが深まった。 助産師と、プレママ・プレパパの日を行った。コロナ禍で産院での両親学級が中止となり、沐浴体験や産後の赤ちゃんとの生活について学ぶ機会となった。	4
④ たかまつ地域子育て支援 コーディネーター	拠点新規利用者の中で登録時に CN を知っている と答えた人が去年より増加。行政の窓口からの紹介も増えていて、連携が進んでいることをかんじている、	4

【事業チームとしての総合的なふりかえり(成果・反省点)】

○今年度は 13 名のうち 6 名が 1 年未満のスタッフ体制となったことから、チームづくりに力をいれた。
まずスタッフ研修をオンラインからリアル開催に変更した。拠点スタッフの役割・コミュニケーション研修・子どもの発達について講師を招いて学んだ。また研修で学んだことをチームごとに共有した。
他拠点のスタッフと顔を合わせ、普段の困りごとや工夫などを話す機会となった。
○ボランティアスタッフの登録の増加
県内の大学にボランティア募集のポスター掲示を依頼し、1 年間通してひろばに関わってくれる学生も増えた。
また利用者の登録も増え、得意なことを活かした講座の開催など横の繋がりができる活動となった。そのことから子育てのしんどさや悩みが大きくなる前に、スタッフや利用者同士の相談に繋がるなど予防的な関わりもできた。
○3 拠点とも 0 歳児の利用が 65%以上となり、育休率が 50%を超えるひろばもあった。
今後もひろばの利用期間が短くなると考えられることから、より一層妊娠期からの利用促進に力を入れていきたい。

【事業チームとしての次期への課題】

妊婦さん・0歳児の早い時期からの利用促進について、具体的な目標をたて行動できるようにする。
スタッフ一人一人が個人の目標・チームの目標を明確にし、半期に一度振り返りながら行動する。

⑥センター事業部 まろっ子ひろば 令和4年度事業報告

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
さかいで子育て支援センターまろっ子ひろば	26,000,000 円	正 5 人 P 4 人	14,433 人

【年度の行動目標】

主	地域に根ざした施設	実行して成果があがったこと(特筆事項)	評価
重点項目	① 幅広い層の利用	それぞれの事業で数値目標を達成できた。 高校生ボランティアが 100 名を超えて登録。イベントと一緒に参加やサポートしてもらうことで子どもたちにも保護者にも喜んでもらうことができた。 今年初、自主事業を妊婦さん対象に実施。10 組 14 人が参加 子どものみだがランチタイムを再開。子どもの成長・体験を増やすことができた。	5
	② 人材育成・体制を整える	・人員の確保が出来ず、少人数でシフトを調整するのが難しかった。その中で、状況に合わせてスタッフ間で連携できた。スタッフが揃って目標を確認することがなかった為、1 回ではあるが全員で振り返りを実施した。	3
	③ 施設管理	・3S を計画的に実施。消防の立ち入り検査もあり、物品を改めて精査できた。業者による点検の実施。 定期的な安全点検にて備品の入れ替えなども行うことができた。	4
	④ スタッフ連携	・朝礼内容の見直しを行った。締め切り、具体的に業務の進捗状況やタイムスケジュールを確認することで、少人数のなかでも各自の業務を全スタッフで調整し行うことができた。	3

【事業チームとしての総合的なふりかえり(成果・反省点)】

- ・年度途中の体制の変更に伴う雇用の確保が出来なかった。他、人材育成育成に関する研修時間の確保など課題もある中、定期的なミーティングを行うなどで都度対応となり課題が残った。
- ・坂出市 0 歳児の登録が 50%以上と目標数値(60%)には届かなかったものの、コロナ禍の中減少していた 0 歳児の利用を増やすことができた。日・祝の利用者も平均して 12~14 組(約 27 人)と休日ニーズも高い。
- ・今年度初のマタニティフェスティバルの実施は広報に苦勞するも坂出市と協働開催することで、今後の継続にも繋がることとなった。
- ・高校生ボランティアの継続した活動は子どもの成長をともに感じ、保護者の喜びや苦勞などを高校生たちに伝えることができたことも地域に根ざした支援センターとして次世代を含めた支援とる足掛かりになったと感じる。

【事業チームとしての次期への課題】

- ・早期の人材確保。
- ・スタッフ全員で話す場がないことか全体の事業の流れや課題を共有することが難しいと感じている。新メンバー含め全体での目標を明確にし、確認できる場をもてるようにしたい。